

塩なめ地蔵と朝夷奈切通



制作

金沢区役所 昔ばなし紙芝居プロジェクトチーム

あらすじ

金沢の民話、「塩なめ地蔵」を現代版にアレンジしたお話です。

金沢区の幸せお届け大使「ぼたんちゃん」は鎌倉への遠足の途中、暑くてみんなからはぐれてしまいます。一休みしていると、なんとお地蔵様が話しかけてきました。飲み物屋さんや大福屋さんをみつけたぼたんちゃんは、買った大福をお供えして、皆に合流しました。

帰り道、再度お地蔵様の目の前を通ったところ、お供えしたはずの大福がありません。先生に聞いたところ、それは「塩なめ地蔵」だと教えてくれました。

紙芝居にまつわるエピソード

①塩なめ地蔵

今から800年程昔、当時海に面していた釜利谷、洲崎、町屋、六浦、野島など、殆どの村では塩づくりが盛んでした、人々は朝夷奈切通を超えて、鎌倉まで塩を売りにっていました。

重い荷物を持って峠を越えていくのは大変で、皆峠の上のお地蔵様の前で一休みしました。「今日も売れますように」とお地蔵様に塩を一つまみしてお供えしてお願いごとのしたところ、塩がよく売れました。

帰りにお地蔵様の前でお礼をすると、朝お供えしたはずの塩がありません。皆同じ経験をしたことから、この地蔵様は「塩なめ地蔵」と呼ばれるようになりました。

②ぼたんちゃんと牡丹の花

この作品の主人公「ぼたんちゃん」は、牡丹の花をモチーフとした金沢区のキャラクターで、金沢区の魅力アップや区民の皆さまのつながりを強めるお手伝いをする幸せお届け大使として活躍中です。

江戸時代に泥亀新田の開発を行い、製塩で成功した、永島家の牡丹が特に有名で、長い間、「金沢の牡丹」「泥亀の牡丹」として楽しまれてきました。金沢区制45周年記念に一般公募して区の花として選定されました。